



『新生児ベーシックケア 家族中心のケア理念をもとに』

評者・木下 千鶴 杏林大学医学部付属病院 小児病棟

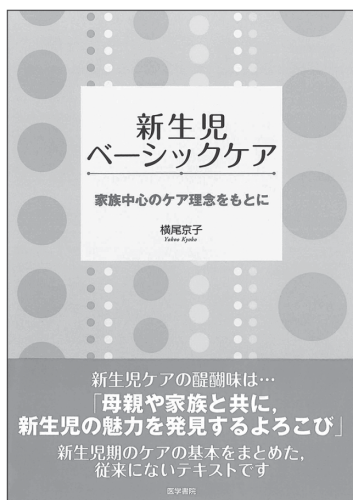
本書は、『新生児ベーシックケア』という書名や、写真やイラストなどを多く用いた紙面から、一見これから新生児を学ぶ学生や、新人などの初学者を対象としているように思えるかもしれませんが、しかし、実際には、新生児看護の経験豊富な看護者にもぜひ読んでいただきたいと思える内容です。

副題に「家族中心のケア理念をもとに」とあるように、序においても「その実現を願い、意識して記述しました」とあります。また、新生児ケアに対する基本的な考え方として、「新生児を1人の人間として尊重する」「家族中心の新生児ケア」「生理的に逸脱しないよう予防的ケアを行なう」という3つが、重要な視点として挙げられています。

以降の章では、出生から退院後の新生児のケアについて述べられていますが、例えば随所に、最初に述べられた3つの重要な視点を、実際のケアの場面でどのように実践していけばよいのか、その在り方が具体的に示されています。

また、著者は、1つひとつのケアについての根拠を示すことを重視したとも述べています。新生児に限らず、さまざまな科学的な根拠が明らかになるにしたがって、例えば数年前には正しいとされていたケアが、最善のケアでなくなることもあります。本書では、出生直後のケア、皮膚のケアやフィジカルアセスメントなどについて、新生児の解剖・生理学的特徴や最新

このケアに根拠はあるのか? 自らの実践を見直す好機



横尾 京子 著

定価 3360 円(本体 3200 円+5%)

B5 判/医学書院/2011 年

の文献をもとに、根拠に基づいたケアについてわかりやすく説明されています。これらにより、最新の知見が得られるだけではなく、日常的に、時にはルーティーン、あるいは慣習として根拠なく行なっているケアはないか、自らの実践を見直す機会にもなるのではないのでしょうか。

私自身、これまで行なってきたケア、現在行なっているケアは、本当に赤ちゃんや家族を尊重したものなのか、自らの日常のケアについて見直さない、と言われているような思いをもちました。

また、本書にはコラムが設けられ、新生児ケアを学ぶ学生や

母親の経験が、その人たち自身の言葉で述べられています。これらにより、学術的な知識、科学的根拠だけではなく、ケアの受け手の立場からの経験的な裏付けをもって、1つひとつのケアの重要性をわかりやすく理解することができるのではないかと思います。

著者は、教育・実践・研究において豊かな経験をもつ、新生児看護のエキスパートです。本書には、その著者がどのように新生児と出会い、魅せられていったのかが述べられています。それを読むと、新生児看護の魅力、意義を改めて実感できるのではないのでしょうか。

わかりやすく、しかも、何が本当に赤ちゃんと家族のために必要なことなのか、家族中心のケアの本質が伝わってくる本だと思います。